

① 学習指導案

プログラム	No. 1 1 「地域景観プランナーになろう」
単元名 (全 時間)	アートの力で地域活性化 「我々の力で西門を有名にして盛り上げよう」
学習のねらい	児童が主体的にまちづくりをおこなうことで、地域の魅力に改めて気づき、地域の景観づくりなどに生かす。
学習内容	1 まちづくりに向けて、有名にすべきものを考える。 2 金銭的な課題の解決策を練る。 3 宣伝を通して、地域の愛着度を持つ人を増やす実践をする。 4 これまでの活動を振り返り、協力してくれた方々に感謝を伝える。
参考資料	準備品
準備品	: 塗料、ハケ・ビニールシートを始め塗装に必要な道具等
実施場所等	実施場所 : 相模原市中央区西門商店街

学習の流れ ※添付資料参照

② 事業実施報告書詳細

※添付資料参照

③. 実施内容について

<p>(1) 実施にあたり工夫した点</p> <p>子供たちが掲げたテーマの一部である「我々の力で」を実現できるように次の3点を常に意識し工夫しました。</p> <p>1. 担任と協力者の間で蜜に連携する</p> <p>子供たちが希望する活動を見守る上で先回りし、企画を説明するなどの協力を募りました。</p> <p>幸いなことに、多くの子供たちが活動に積極的だったため、自主学习などに細かく計画を立てたり協力してほしい企業を大まかに書いていたりしていました。担任は、その一部をつなぎ合わせ資料をつくり、協力してくださる方々に説明するなど、密に連携を図りました。</p> <p>2. 常に活動の目的を子供たちに意識させる</p> <p>子供たちの活動が加速すると、本来の活動の目的が薄れてしまうため、常に何のためにこの活動をおこなっているのかを意識させることが必要でした。何回か活動の目的を確認しあうと子供たちも限られた条件の中で何を優先すべきかを考えるようになりました。</p> <p>3. 1人1人が「景観プランナー」として責任をもって計画し実行する</p> <p>地域の商店街がシャッター街となっていること、活気がなくなっており雰囲気が暗くなっていることを目にした子供たちが1人1人地域活性化にむけて「景観プランナー」として活動してきました。デザインを必ず全員1回描き、そこからプレゼンし合い、時間や金銭的な条件なども含めてプランナーとして責任をもって実行に移そうと努力していました。</p>
<p>(2) 実施にあたり苦労した点</p> <p>活動をすすめるにあたり、課題がいくつも生じました。</p>

道具や塗料などの金銭的な面、活動場所や協力者、時間の確保を始め、子供たちのモチベーションの継続などに苦労しました。子供たちが「景観プランナー」として主体的に活動するとなると相当の時間や労力、協力してくれる方々が必要となりました。常に担任が先回りし、地域の方々に説明したり財源の確保などが大変でした。

(3) 児童の反応

当初は何をすべきかを分からず右往左往している状況でした。話し合いに関しても、子供たちは受け身になっておりお互いに意見を交わすこと自体難しかったです。徐々に活動が明確化してくると同時に、「商店街の景観をどうにかしたい!」「地域をきれいにしたい!」と意見が子供たちからでたことでプランナーとしての自覚が芽生え始めました。

子供たちは、最後まで自分たちの力でやり遂げることを目標に掲げ全力で取り組んできました。活動を進めるにあたり、地域の方々とコミュニケーションを重ね、地域の人の思いを聞いていきました。その過程の中で、「我々の力だけでなく、地域の方々が協力してくれて今の街がある。僕たちの街も誰かの思いによって支えられている」ことに気づきました。

活動のまとめとしても、「地域の方々に感謝を伝えたい」といった発言が自然に出てき掃除やエコバッグを渡すという発想になりました。直接地域の方々に感謝を伝えることで「商店街が明るくなったよ」といってもらいこれまでの活動の苦労が報われた様でした。

その後、卒業にむけても自分たちが主体的になって行動することに楽しさを見出し、小学校生活の最後の瞬間まで有意義な時間を過ごしていました。子供たちからは、「この活動をして本当によかった!」「一生の思い出になる」と話していました。子供たちは、将来成人式の日に自分たちの活動した西門商店街で再会したいと約束していました。それほど子供たちは自分たちの成長を感じ、仲間を大事に思う心を培うことができました。

(4) 担当教諭及び担当外教諭の変化

当初は、児童と同様に具体的な活動を思い浮かべることができず右往左往している状態でした。子供たちの考えを目的に沿ってどうつなげていくかに悩みましたが、協力して下さる方が見付き、活動が子供たち主体で進んでいくにつれて、子供たちの力を信じるようになりました。活動に関しても、子供が主体的に動き出し、放課後や土日にも関わらず活動する姿に感化され担任である私自身も「まちづくり」に興味をもち調べるようになりました。

教員として、常に児童と同じ目線で立っていたいと考えておりましたが、なかなかそうはいかずどうしても教師主体で進めていく機会が多かったため、今回の機会で子供達の行動力の高さに驚かされ、また地域の方々からの快い協力に教師になってよかったと心から思い、更に地域愛が深まりました。

(5) 今後の課題と取り組み〔児童の思考過程と指導内容との関連付けから、留意すべき事項等〕

限られた時間や金銭的な面が一番の課題だと思います。子供たちは活動に集中すると、目的や条件などを見失いがちです。しかし、主体的に動きたいという気持ちはあるので、担任として邪魔するわけにもいきませんでした。そのため、時間や人材の確保が最も必要になってくると思います。

また、バス通りの面に関しては依然として雰囲気は暗く改善が必要であることは児童からも発言がありました。しかし、時間的にも金銭的にも限りがあったため今年度中には着手することができませんでした。こうした課題も含め、先を見通す力が担任や児童にも必要だと改めて実感しました。



①学習指導案

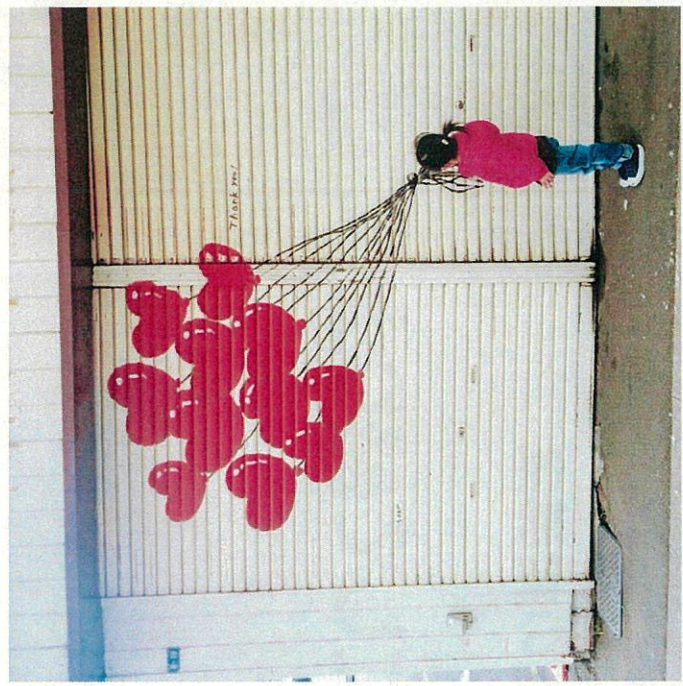
計画段階の指導案

我々の力で西門を有名にして盛り上げよう！

～西門商店街活性化プロジェクト～



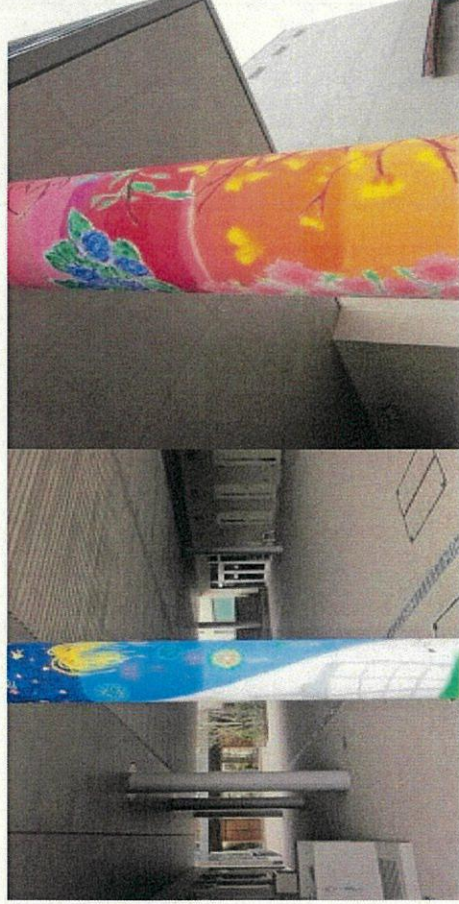
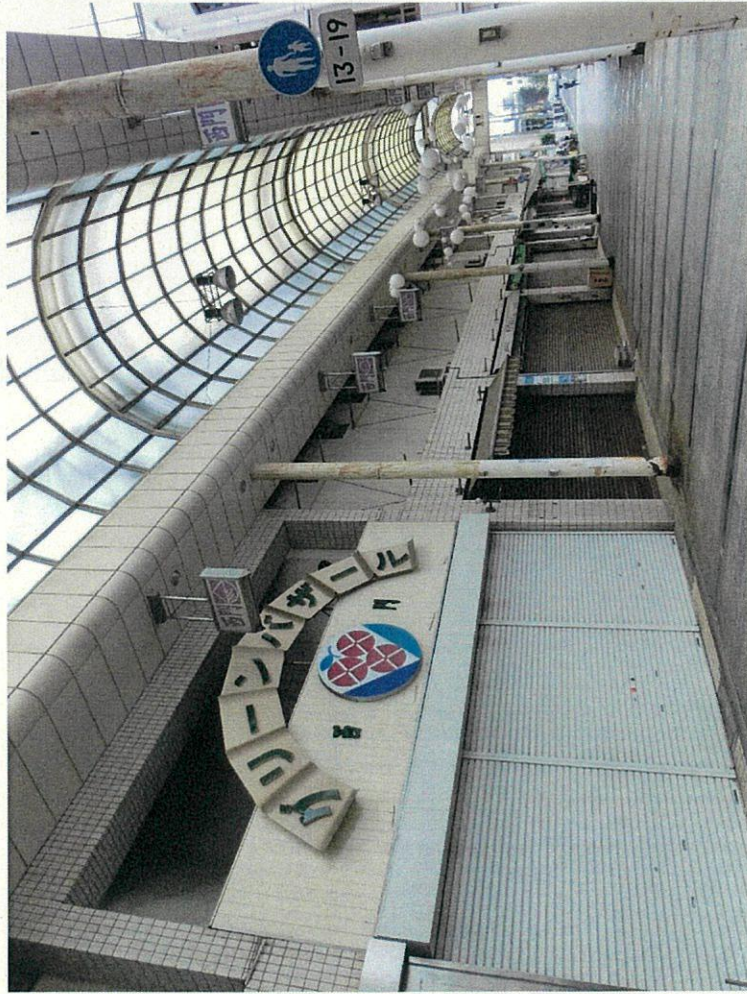
シャッターアートで有名に！



引用：北海道滝川市のシャッターアート
<https://lee.hpplus.jp/100nintai/412184/>



アーケードの柱を有名に！



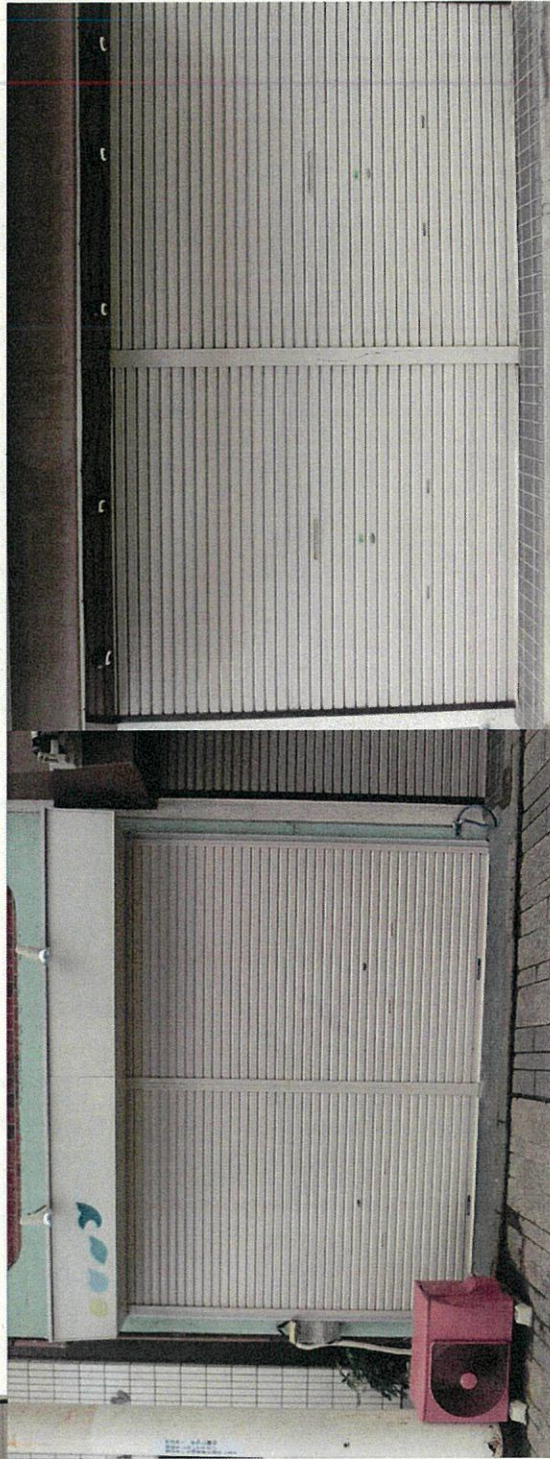
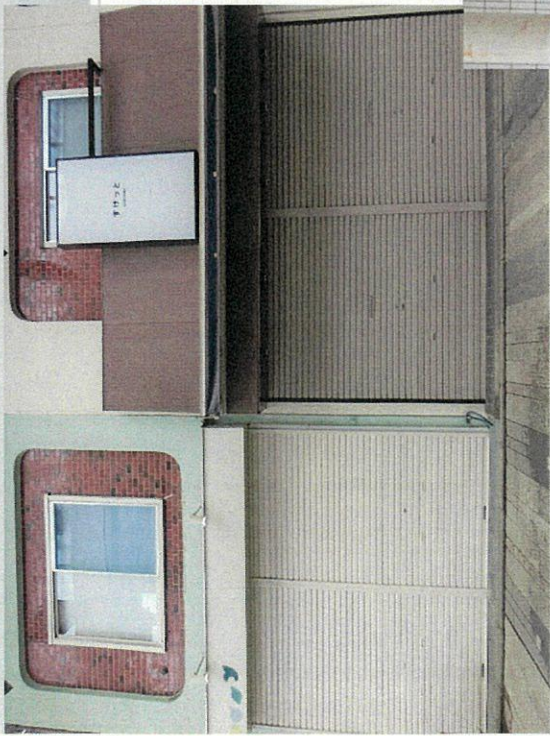
昇降口前の1Fビロテイの柱がご覧のようなアートになりました。これは制作展に向けての「野外展示」です。子ども達の作品が野外にも展示できたらいいなあ、と前から思っていたのでとても嬉しく思います。また玄関の前にもアートな看板が展示されます。10日(日)まで神奈川県民ホールギャラリーで、神奈川県私立小学校「造形展」が行われており、毎年湘南学園の作品が来場者から高い評価を受けています。どうぞご参加ください。

参照：湘南学園小学校

<https://www.shogak.ac.jp/elementary/diary/4726>



現時点でのシャッターの様子！





アーケードの柱の様子！



1学期のイメージ

テーマを決めよう



1学期末までの理想イメージ

テーマ・想
い確立

対象の地域
決める

アピール相
手を決める

協力者の検
討をつける

次回予告
出会い+協力者登場

情報収集 (+出会い)

・協力者募集

→商店街

→美大

→保護者

→インスタグラマー

→市役所

HW

協力者/映えスポット/シヤッター
アートを考えてくる

整理・分析

・「若者 人気」から分
かったこと

→思い出になる体験/話題
になる体験が有名になる
ポイント

・有名にするには？

→SNS映えするスポットづ
くり

→シヤッターアート

写真映え

・掲示する場所

→西門、市役所、大学、
学校

課題

・有名にするもの
がない。

・自分たちの力だけ
では限界

・魅せる/見せる相手
は？

外国の人のみ？

・商店街の人の想い
(商店街をよりあげ
てほしい) VS 自分た
ちの想い (自然を主
にアピールしたい)

情報収集

・「地域」をどこ
に設定？

・主なスポット
は？

・有名になるもの
とは？

課題設定

我々の力で、
地域を有名
に！

2学期のイメージ

出会いからの実践



理想のイメージ

採用!10万円給付確定。

企画終了後にレポート提出。
→児童「MAPチーム」指導。

11月

「景観プランナーになるう」の企画提出

協力者との連携/「地域」の定義確認

お金問題

美大とのコラボ

西門商店街の清掃 (相互のメリット性)

画材などの諸経費を自分達で負担。

5万円 (3万ペンキ代 + 2万コーティング代)

→稼ぐ方法は? 集金、フリーマーケット、西門で商品进行

Cf.

大人の責任感、社会人の様子、学生の様子、(キャリア教育の要素)

どんな絵をかく? 映えのテーマ設定

アピールするには? 宣伝方法

実行

・取材のお願い (依頼する方法模索、メディアの種類模索)

・外国の人にもアピールするには? (国際交流センターラウンジ、市役所、CM、パンフレット、ポスターなど)

→外国語科の重要性を改めて認識

・大手テレビ局に取材の依頼。方法模索。

・注目度の変化

・自分たちの地域への貢献度/愛着度

HW/ 課題

・話題を継続するには?

・地域/美大生への感謝を伝える方法

・今後は?

・相模原塗装協同組合の方々→最高級の塗料を全て寄付して頂けることに。

・商店街会長

→相模原市のコロナ救援金 (?) より10万円を6-3に確保。

・「景観プランナー」の給付金10万円確保。

11.23

次回予告
活動のまとめ、継続の方法
(ボランティア等)

3学期イメージ

卒業と同時に「伝説」を残す





理想のイメージ

話題性の継続方法

- ・ シヤッターアート
- ・ 写真
(自分達が主に活動しているところ)
- ・ カレンダー等のグッズ販売
- ・ ブログ紹介
- ・ インフルエンサーとの交換性

地域への愛着の表し方

- ・ 感謝の気持ちを表現する
Ex. 清掃 (アピール性をしめしたグッズ、衣装などを着用するのもあり?)
手紙、買い物、頻繁に会いに行く
「やっておしまい。」
では終わらない活動の継続性 → 積極的な自分たちの姿から「伝説」にする。
→ 取材などにつなげられたら...

活動の報告

- ・ 経験を記録に残す。→ 次年度の6年生への引きつぎ。
(写真や図を多用する)
- ・ 保護者への報告 / 感謝
Ex. 授業参観
- ・ 来る2020オリンピックに向けて、さらなる飛躍へ
Ex. zoom を利用し、世界的にアピール / CM作成
→ 地方局等 ⇒ 全国放送で流してもらおう
⇒ 伝説に!!!!

「自分達の選択

『有名にしたい!』

から始まった活動。きづくとう自分が地域の魅力に魅せられていた。」

・・・とかで終われば理想!

これまでの流れ⇒今後の流れ

9.16

<p>地域の活性化とは？</p> <ul style="list-style-type: none"> • 地域の課題確認 • 西門VS公園など 	<p>誰が主役？ 自分達のテーマは？</p> <ul style="list-style-type: none"> • 我々の力で地域を「有名に（活性化）しよう！」 	<p>何を有名に？どこをゴールに？</p> <ul style="list-style-type: none"> • 自然、きれいな景色、赤い手、青い手などの地域の魅力。を有名にしたらどうだろうか。 	<p>西門を知ろう</p> <ul style="list-style-type: none"> • 赤い手、青い手以外に何がある？ • 人、お店の様子を我々で体感しよう！ 	<p>西門の課題をまとめよう</p> <ul style="list-style-type: none"> • 人やお店の方はとても親しみやすく、素敵だった！一方で、雰囲気全体的に暗かった。 • 若者が少ない。 • 道が舗装されていないところがあつた。「歩きたくない街」なのにもつたいない。 	<p>課題を有名にする方法模索</p> <ul style="list-style-type: none"> • 暗い要因の1つに、シャッターの存在。シャッターは、「また来てね」という明るい意味が込められている。 • シャッター＋スマホを活かせば、若者を増やせるのでは？ • 歩きたくなる街にするにはどんな方法がある？
<p>シャッターアートとは？</p> <ul style="list-style-type: none"> • トリックアートの関連 • 話題性 	<p>協力者の募集</p> <ul style="list-style-type: none"> • 我々の力だけではできない。 • 協力をお願いする方をリストアップ 	<p>チームで作戦会議 ～西門～</p> <ul style="list-style-type: none"> • 西門商店街会長、浦上さん • シャッター所有者、「すけっと」渡辺さん • 第三図工室 	<p>チームで作戦会議 ～美大～</p> <ul style="list-style-type: none"> • 女子美 • 多摩美 	<p>チームで作戦会議 ～その他～</p> <ul style="list-style-type: none"> • ユニコムプラザさがみはら 	<p>協力をお願いしよう</p> <ul style="list-style-type: none"> • Zoom • 手紙 • 電話



チーム構成

交渉チーム

アートチーム

- ・アーケード柱
- ・「すけっと」シャッターアート
壁画アート

西門商店街を有名にして、
盛り上げたい！

計画チーム

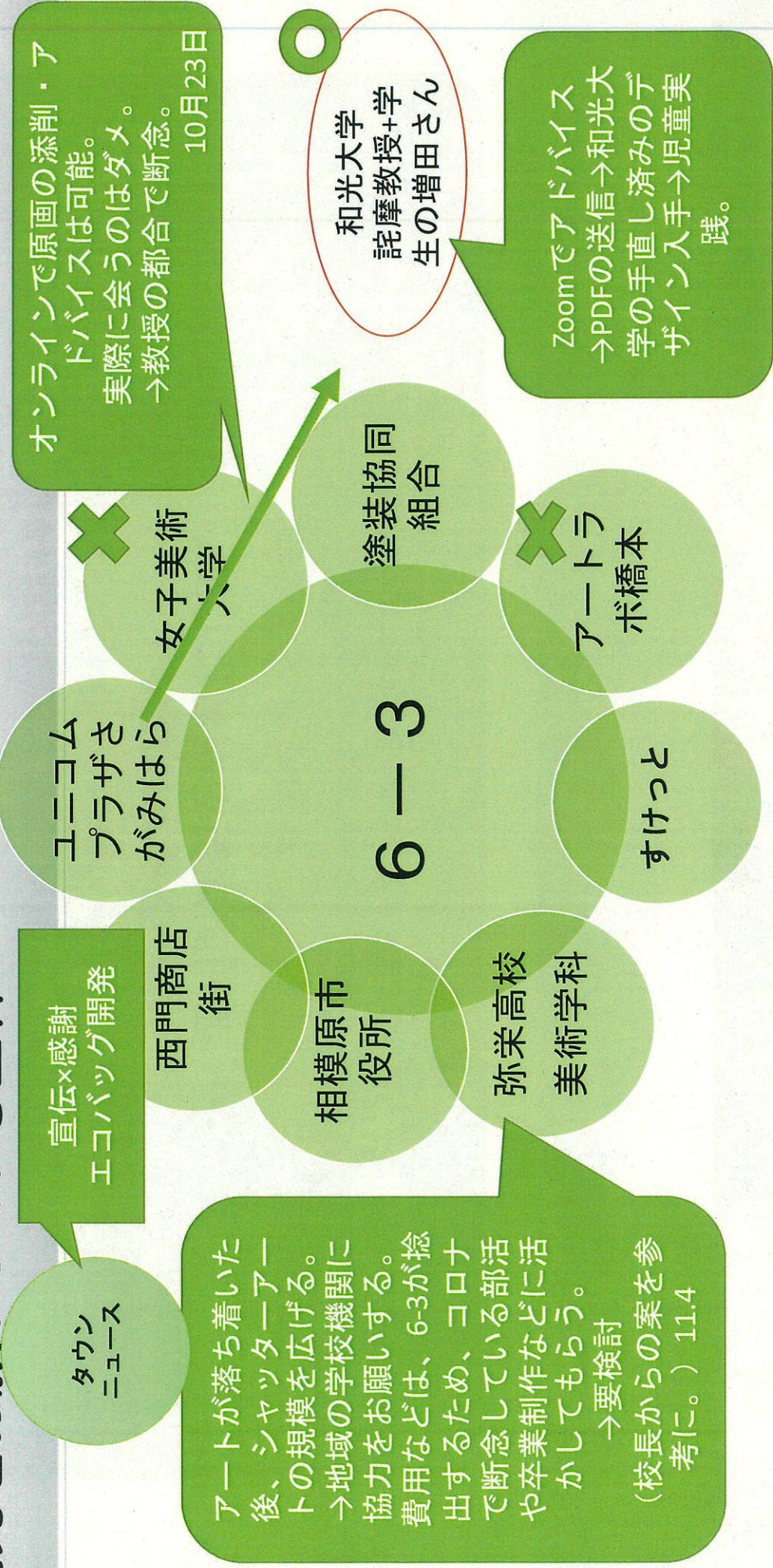
その他チーム

財務チーム

そうじ、小道具、MAPチーム

現時点12.7

協力をお願いしている団体



タウン
ニュース

宣伝×感謝
エコバッグ開発

ユニコム
プラザさがみはら

X
女子美術
大学

相模原市
役所

塗装協同
組合

弥栄高校
美術学科

X
アートラ
ボ橋本

すけっと

アートが落ちて着いた後、シャッターアートの規模を広げる。→地域の学校機関に協力をお願いする。費用などは、6-3が捻出するため、コロナで断念している部活や卒業制作などに活かしてもらおう。
→要検討
(校長からの案を参考に。) 11.4

オンラインで原画の添削・アドバイスは可能。実際に会うのはダメ。→教授の都合で断念。
10月23日

和光大学
詫摩教授+学
生の増田さん

Zoomでアドバイス
→PDFの送信→和光大
学の手直し済みのデ
ザイン入手→児童実
践。

2学期の詳細計画

月日	大人	児童
8月夏休み～月末	<ul style="list-style-type: none"> □協力団体を探す □打ち合わせの準備 □pptの作成 □フリマの検討 □2学期以降の計画 □申請書の作成 □浦上会長との打ち合わせ □美大との打ち合わせ □第三図工室福永さんとの打ち合わせ □塗装協会理事長との打ち合わせ □市役所へのお願い（観光文化） 	<ul style="list-style-type: none"> □各チームで必要なことを調べる。 □デザイン画作成 →夏休み明けから選抜。
9月末（運動会後）～11月末	<ul style="list-style-type: none"> □保護者へのアート協力お願い（服装、協働等 文書） □フリマ商品集め運ぶ □9/26フリマ—出勤 □材料購入→11月半ばまでに領収書まとめる×11月末のため ⇒浦上会長に提出（追記：11月末までに交渉中。11.15） □各チームの監督。 □情報発信→過程をメディアに発信。（全国に挑戦。） →3学期以降につなげる 	<ul style="list-style-type: none"> □実際に各チーム実践。アート部門優先。 □ボランティア募集 □過程をメディアを使って発信。 □保護者への協力をお願い。 □有志でフリマ参加
12月	<ul style="list-style-type: none"> □保護者への協力感謝（文書） □次の協力団体への打診（報道） □宣伝+感謝の気持ちを伝える効率的な方法→エコバッグ、マスクケース、手紙、CM等 □取材関係へのお願い（市役所へのお願い） 	<ul style="list-style-type: none"> □活動の振り返り □「継続するには？」再考 □自分たちの活動を広めよう。伝えよう。

3学期以降の計画

月日	大人	児童
12月冬休み	<ul style="list-style-type: none"> □各協力団体へのお礼 □柱アートの打ち合わせ 	<ul style="list-style-type: none"> □地域へ感謝の気持ちを伝えるには？ □活動の発表方法考える／練習
1月	<ul style="list-style-type: none"> □保護者へ柱アートの協力をお願い。 □各テレビ局、新聞社に取材の依頼。 □掃除備品の用意 □活動まとめ (pptの提案) 	<ul style="list-style-type: none"> □片づけ、掃除 □地域の方に活動を伝えよう。自分たちの活動まとめ。→作成・練習
2月	<ul style="list-style-type: none"> □メディア発信 □活動まとめ・発表の準備 	<ul style="list-style-type: none"> □市長さんに活動を伝えよう自分たちの活動まとめ。発表。(授業参観) □片づけ、掃除
3月	<ul style="list-style-type: none"> □メディア発信 (卒業後も児童が確認できるように...) 	<ul style="list-style-type: none"> □卒業しても自分たちの活動を意識しよう。



②事業実施報告 書詳細



シャッターアート

時間数：20時間

場所：教室・西門商店街

概要：西門商店街の障害者支援施設、すけっと **nisimon** さんにご協力をいただきお店のシャッターに絵を描かせていただきました。相模原市や西門付近の特色を活かし、子ども達が「西門らしさ」「地域の魅力」を伝えようとシャッターアートを行いました。

デザイン決定に向けて、話し合いや大学の教授に相談しました。

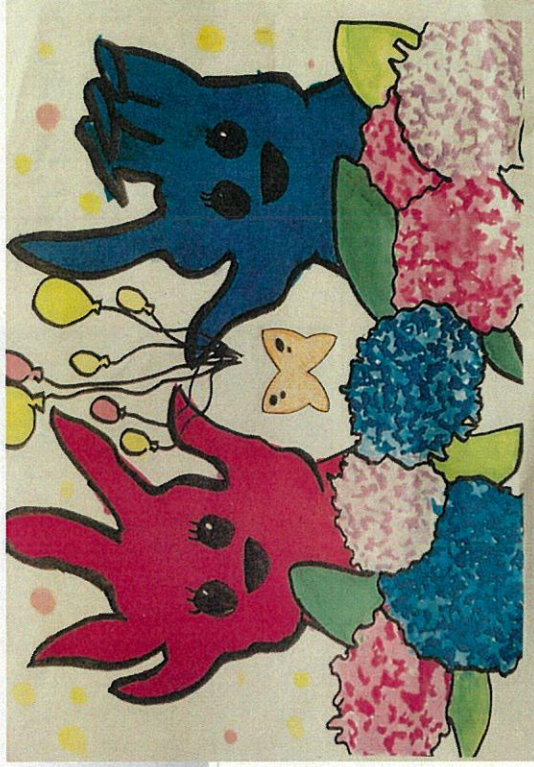
活動1: シヤッターアートのデザイン を決めよう!

風船をもって撮れる
参加型のアート

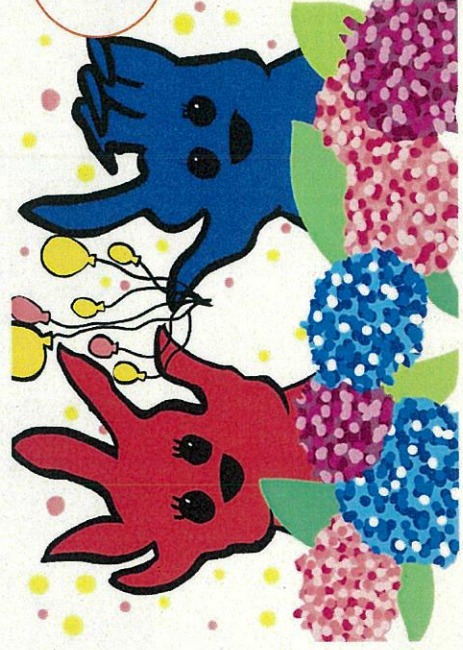
西門の象徴である
「赤い手青い手」

市の花である
「あじさい」

1人1人自分達のデザインを発表し、話し合っていました。



児童のデザインを、和光大学の教授や学生の方に直して頂きました。



決定



活動2: シヤッターに描こう



何も無いところから



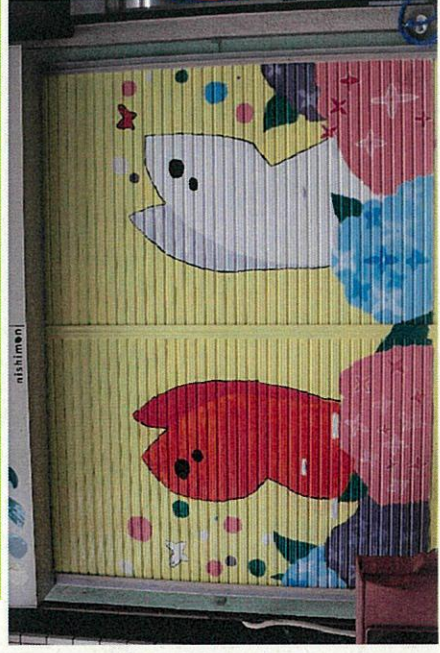
下書きの鉛筆をたよりに
ちよつとずつ描きました。



時には失敗することもありましたが、何度も確認。



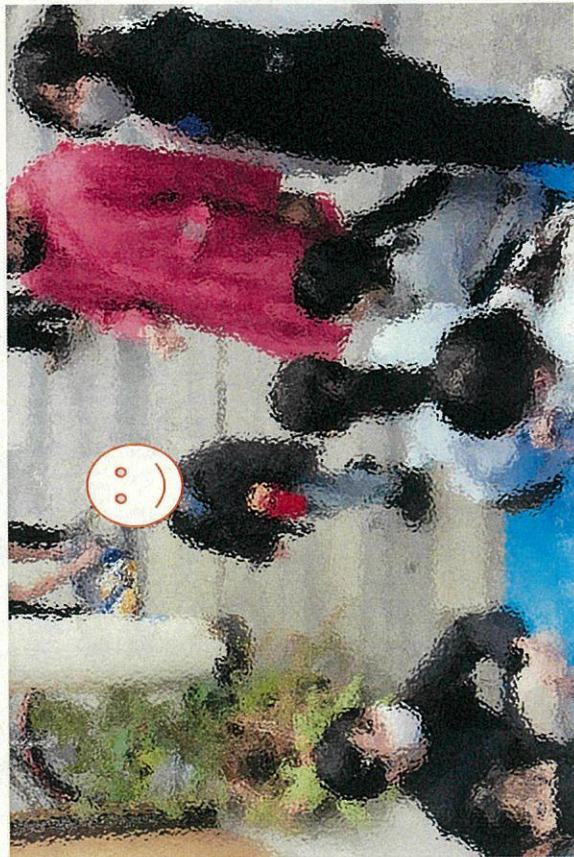
全て児童が描
きました。



土日にも、近所の
方にご協力いた
だき、一部の児
童と描きました。



シャッターアート 対象者の反応①



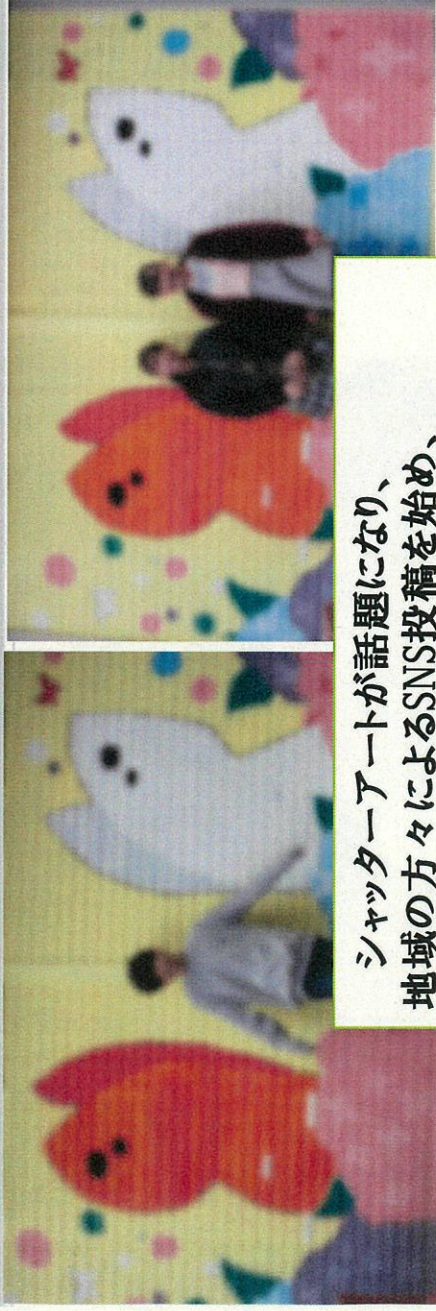
作業中に地域の方々にも興味をもっていたとき、「すてきだね！」と声をかけてもらいました。



地元の新聞にも取材して頂き、歴史に残すことができました。



シャッターアート 対象者の反応②

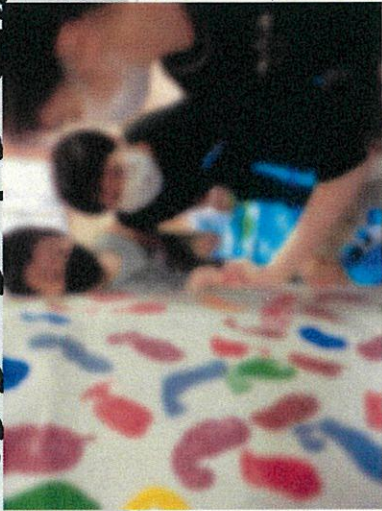
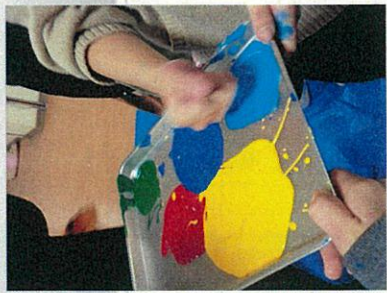


シャッターアートが話題になり、地域の方々によるSNS投稿を始め、校内でも30人以上が「映え写真」をとるなど、地域に興味をもってもらうことができました。



評判が市役所にも届き、相模原市長 もとむら市長にも来ていただき、SNSで投稿していただきました。

活動3:柱アートのデザインを決めよう

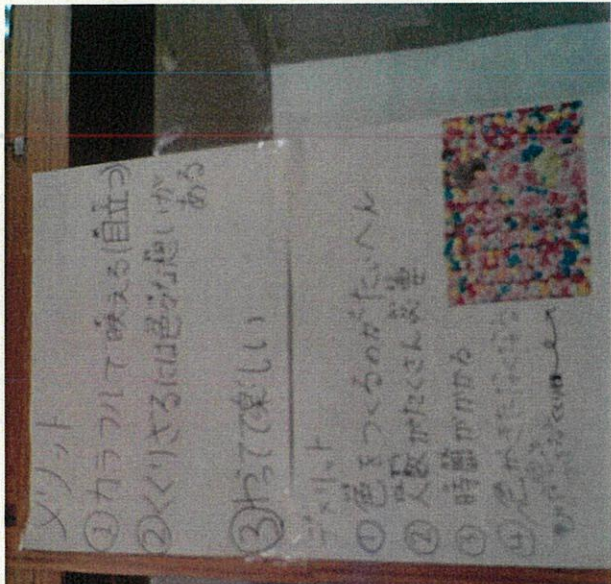


最終候補として、2種類のデザインにまでしぼりました。お互いにプレゼンし納得した答えをだすために、自分達の手で実践し何度も実験や話し合いを重ねて決めました。



本校の校章をモチーフにデザインしました。しかし、話し合いの末今回は見送ることになりました。

京都の八坂庚申堂の「くくり猿」をモチーフに描くことになりました。

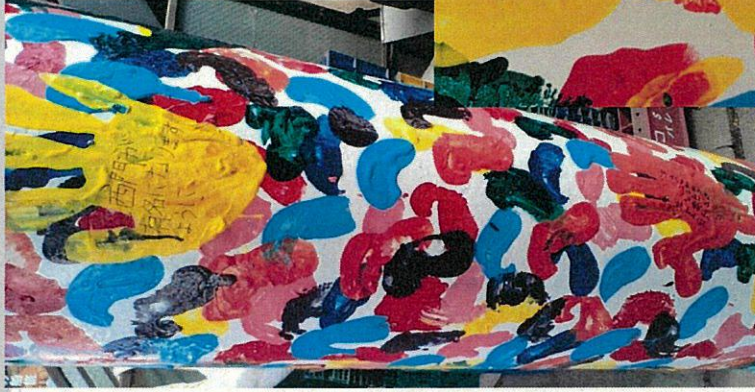




活動3:柱アート 完成



道具を一式そろえ、限られた時間の中で完成させました。
西門への思いと活動を通しての自分達の思いを表した「想いの木」では、子供達が手書きしました。



「想いの木」



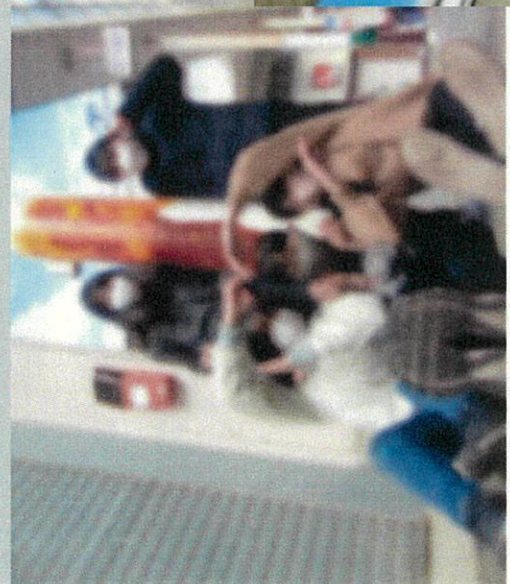
「幻の桜の一年」



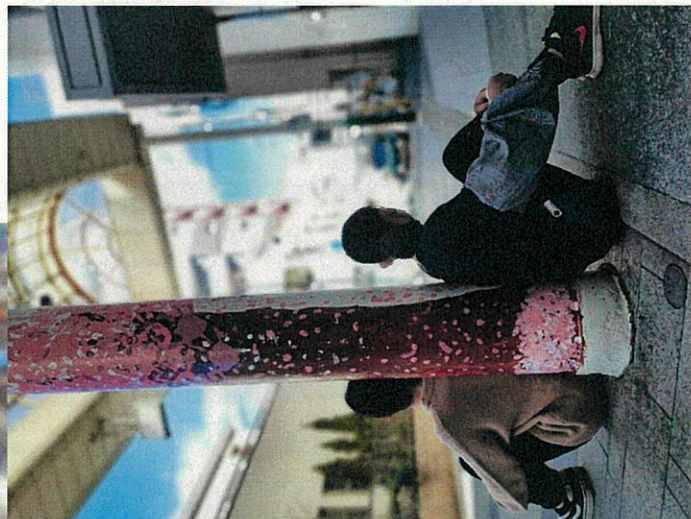
桜祭りとして地域で有名な桜が伐採されることを児童が地域の人に聞いたことをきっかけに、桜の春夏秋冬を表しました。



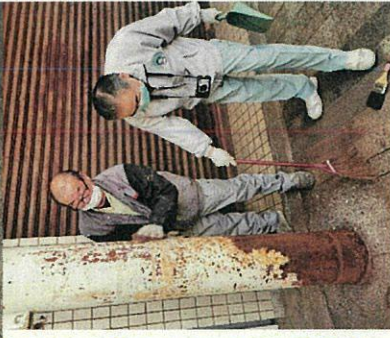
柱アート 対象者の反応



「映え写真グランプリ」をクラスで開催し、自分が気に入った柱をバックに写真を撮りました。
また、全校児童に柱アートをみてもらえようというCMを作成しました。

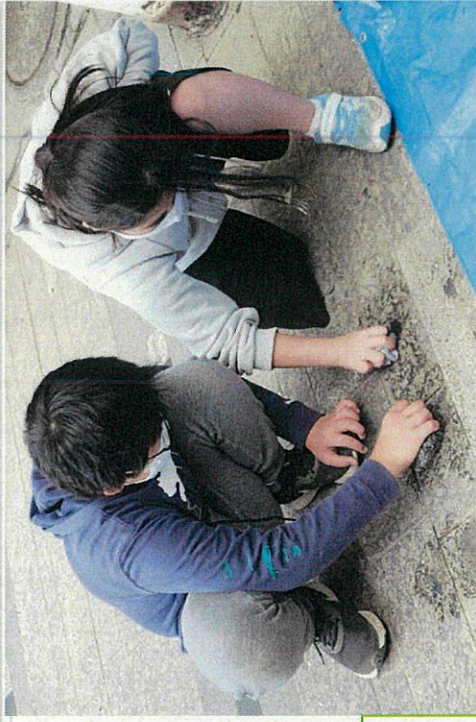
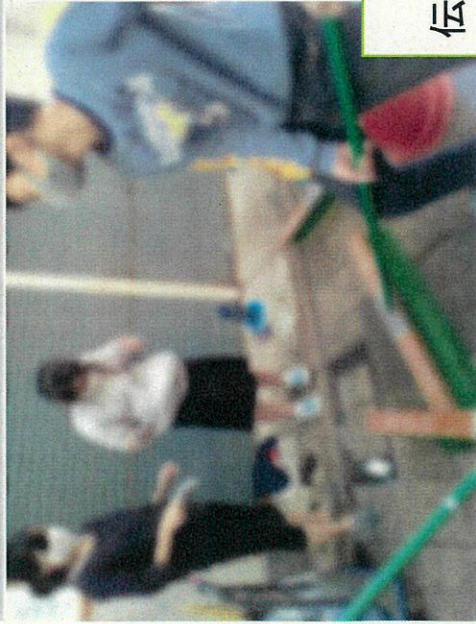


私達の活動を応援して下さる地域の方々や塗装協同組合の方々が土日にも関わらず下準備を手伝ってくださるなど、全面的に協力してくださいました。

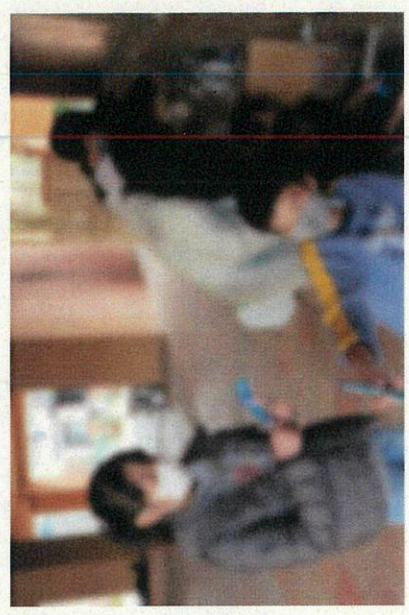




活動4：地域の方に感謝をつたえよう ①掃除

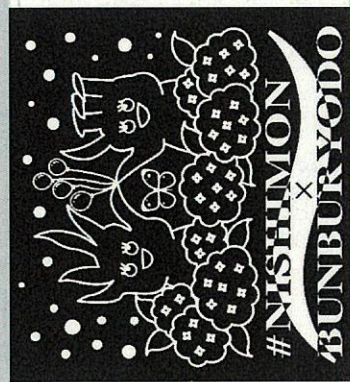
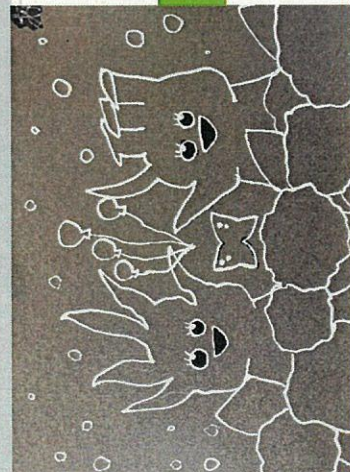


これまで協力をして頂いた地域の方に感謝を伝えるために、また景観を守るためにも商店街を掃除しました。その際に必要な道具を児童達が学校から運び入れ一生懸命掃除していました。更に、活動全体を通して必要な水を毎回学校から運び入れていました。20ℓ以上の水をタンクに入れ台車やリュックで運びこみました。何度も担任が説得したにも関わらず、子ども達は「自分達ができることは自分達で最後までやり遂げたい」と譲らず全て自分達で用意する程熱意をもっていました。





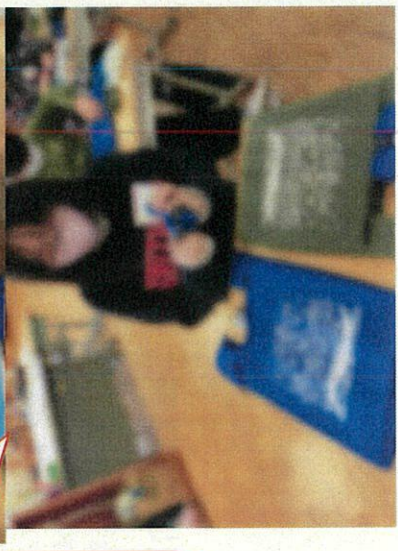
活動4：地域の方に感謝をつたえよう ②エコバッグ



予め児童がデザインしたものを株式会社タウンニュースのデザイナーの方に修正してもらいました。



布の素材から選び、色や印刷の仕方など、1つ1つ児童達が決めていきました。



完成したエコバッグを手に取り、感動した様子でした。そして、一つ一つ丁寧に梱包し、感謝の手紙を添えて準備しました。

掃除・エコバッグ 対象者の反応①



地元の情報誌「タウンニュース」に取材をしていただき、クラス全員の満面の笑みの写真を掲載することができ、保護者を始め地域のの方々にも自分達の活動をしてもらおうとことができました。

PICK UP!

大学と地域

橋渡し事業【富士見小学校×和光大学】

相模原の西門商店街のシャッターアートに挑戦する小学生に、和光大学表現学部芸術学科 詫摩昭人教授と学生に、オンラインで美術指導をお願いしました！シャッターアートを手掛けた教授ならではの専門的アドバイスに小学生たちも熟意を新たにし、全力で取り組んだ作品がこの度完成！小学校と大学との新たな連携が形になりました。



小学生が描いた原画をもとに、技術アドバイスと挑戦することの素晴らしさも一緒に教えてくれた詫摩先生でして、自主的にまとめ作業を行う姿も！

↑

担任の宮内美穂先生からのコメント

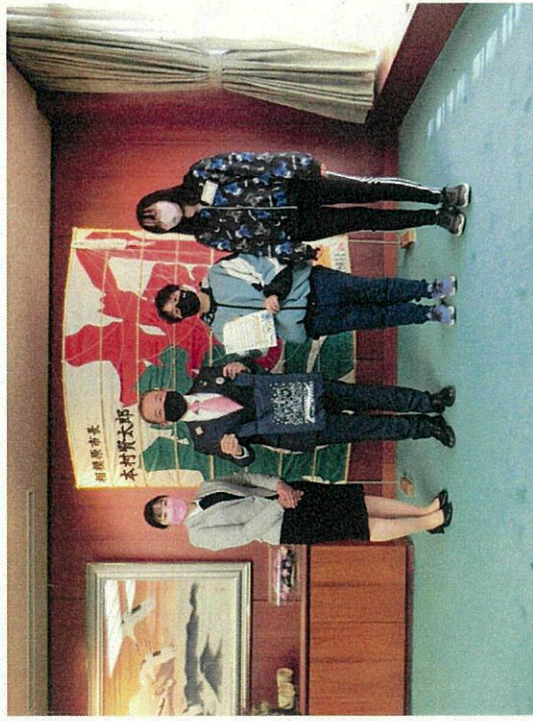
連携後で児童は大きく成長しました。自らみんなにプレゼンを行うなど、本気で取り組み姿が見られ、担任として感動しました。また、大学の教授と直接話をするという貴重な経験から、大学にも興味をもつ様子が見られました。次は商店街のアーケードの柱を手形アートの飾りです。子どもたちの地域活性化に向けての活動を応援頂けると嬉しいです。

完成したアートの前で：「総合学習」の時間で西門商店街活性化に取り組んだ富士見小6年3組のみなさん

大学とつなげて頂いた、ユニコムプラザの方々にも取材をしていただき全国で100か所以上に置かせてもらいました。



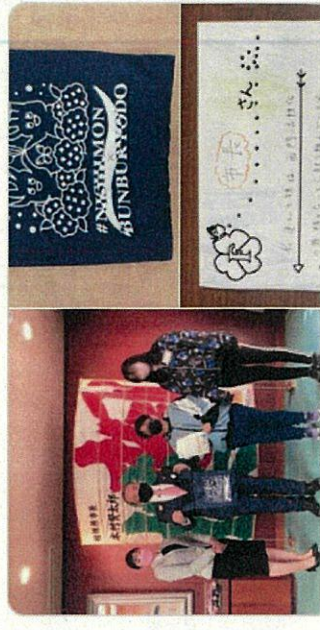
対象者の反応②



相模原市長にもエコバッグを渡すことができ、喜んでいただくことができました。また、市長のSNSにも挙げていただき、地域の方のみならず全国の方々からの「ほしーい！」とコメントを頂き、子ども達も喜んでいました。

相模原市長 もとむら 賢太郎
@kentarou450417

富士見小学校6年3組の皆さんからエコバッグをいただきました。西門シャッターアートに自分達で描いたデザインを組合わせ、相模原を象徴するあじさい、赤い手や青い手を表したデザインのエコバッグ。西門商店街に足を運び、シャッターアートを見てもらいたいという発想から作成にいたったそうです。



相模原市長 もとむら 賢太郎 @kentarou450417 · 3月22日

返信先: @kentarou450417さん

このエコバッグを使い、お買い物に行ってください！

👁️ 🔄 🍷 24

📍 さかみはら部 @sagami_mimi · 3月22日

返信先: @kentarou450417さん

すごく素敵なデザインですな〜欲しい(´▽`)です♡

👁️ 🔄 🍷 3

📍 ラチママ @lachie14 · 3月22日

返信先: @kentarou450417さん

ほ、欲しい👍👍
どこかで買えるのでしょうか!?

👁️ 🔄 🍷 1



ご支援ありがとうございました。 ごございました。

富士見小学校 6年3組 文武両道より